

鉏路市教育委員会 令和3年第14回8月定例会会議録

- 1 日時：令和3年8月24日（火）13時30分から15時20分まで
- 2 会場：MOO 2階 教育委員会室
- 3 出席者
岡部義孝教育長
（教育委員）
山口隆委員、松尾千穂委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員
（事務局）
大坪学校教育部長、津田生涯学習部長、大山教育指導参事、三富学校教育部次長、
早坂学校教育部次長、工藤生涯学習部次長、富田総括指導主事、森教育政策主幹、
久保給食担当主幹、澤口生涯学習課長、中村動物園長
- 4 議事録署名人 山口委員、小出委員
- 5 傍聴人数 2人
- 6 提出案件

【公開案件】

報告事項

- (1) 通学路の安全状況について
- (2) 2021「くしろ20歳のつどい」の開催結果について
- (3) ベトナムを相手国とするホストタウンの取組について
- (4) 学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】報告事項

(1) 通学路の安全状況について

(森教育政策主幹)

今年6月28日に千葉県において、下校中の児童が犠牲となる飲酒運転による交通事故が発生したのを機に、国から通学路の合同点検実施等に関する通知があり、今月道教委による要領が示された。

現在各小学校には、現状において、合同点検が必要な箇所についての調査依頼をしている。

釧路市では、平成26年度に釧路市通学路安全プログラムを策定し、平成27年度より通学路の安全マップの作成にあわせ、年4校ずつ、学校、PTA、道路管理者、警察等による合同点検を実施してきた。

今年度は阿寒地区・音別地区に加え、令和2年度に対象校となっていた愛国小学校について、安全プログラムに則り、冬季に合同点検を実施する予定であったが時期を早めて実施したい。

来月9日に釧路市通学路安全対策連絡協議会を開催し、関係機関と相互に確認を行い、合同点検実施に向けて進めてまいりたい。

また、阿寒湖義務教育学校の通学路の安全に関して一点報告する。今年は全道でヒグマによる被害や目撃情報が多数発生しており、阿寒湖地区でも6月に温泉街でのヒグマの目撃情報があったことから、ハンターによる警戒が実施された。

阿寒湖義務教育学校では4月より、1年生から6年生を対象にスクールバスを運行していることから、通学の安全については確保されているものと考えているが、最近の厚岸町や中標津町でのヒグマによる被害や目撃情報を考慮し、後期課程の生徒のためにスクールバスの増便を行い、安全を確保することとし、増便期間は9月6日から10月末までを予定している。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

通学路ということには限定されないが、阿寒湖義務教育学校を訪問した際、校舎周辺にヒグマが出没するという話を子どもから聞いたが、教育活動を行っていく中で特に阿寒湖の場合はヒグマ対策が必要になってくると思うので、その辺りを考慮してほしい。

(森教育政策主幹)

スクールバスは基本小学生だけであり、釧路地区では2キロを超える範囲、中学生は3キロを超える範囲の子どもが対象となるが、阿寒湖義務教育学校の場合は土地柄もあるため、1年生から6年生までの前期課程全員を対象に運行を行っている。

今年のヒグマは例年と動きが違うという専門家の情報もあり、安全確保のため冬眠に入る10月末まで運行することになった。

(松尾委員)

前期課程の児童が全員乗った場合のバスの余裕はどうなっているのか。

(森教育政策主幹)

運行しているバスは29名乗りで、前期課程の児童全員が乗れないため2往復している。それに加えて後期課程の生徒のために1台増便して対応している。帰りは低学年と高学年で帰りの時間が違うため、1台で運行が可能である。

(松尾委員)

危険な場所は学校から住宅街の間なのかと思うが、どの辺りから通学してくるのか。

(森教育政策主幹)

学校の目の前にも住宅はあるが、一番多い所は消防署やバスターミナル周辺となっている。

(種村委員)

ヒグマ駆除の対策は行っているのか。

(森教育政策主幹)

駆除については、6月に目撃情報があった時点で阿寒町行政センターの市民課でハンターを出して警戒したが見つけられなかった。

(岡部教育長)

阿寒湖義務教育学校を設置するにあたり、スクールバスの議論を進めてきた結果、前期課程の児童に対応することとなったが、今年はヒグマの動きが活発になっているため、当面の危険を回避するための対応である。

次年度は改めて野生動物の動きを踏まえた検討が必要である。

【公開案件】 報告事項

(2) 2021「くしろ20歳のつどい」の開催結果について

(澤口生涯学習課長)

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、1月10日から延期していた「2021くしろ20歳のつどい」については、8月14日に新型コロナウイルス感染対策を講じた中、コーチャンフォー釧路文化ホール、生涯学習センター、湿原の風アリーナ、阿寒町公民館、音別町行政センターに分散して開催し、これまでにない成人式となったところである。

感染防止の対策として、8月2日に全国知事会の国への緊急提言や、北海道におけるまん延防止等重点措置等を考慮し、出席は釧路管内在住者に限定し、来場できない新成人や例年ご参加いただいている教育委員をはじめとするご来賓の皆様には、YouTubeにより式典の生配信を視聴するようお願いし、また出席申し込みをした新成人には抗原検査キットを配布し、新型コロナウイルスに感染していないことを確認してから入場していただき、式典もおおむね30分で終了するよう時間短縮を行った中で実施したところである。

市内の新成人対象者1,561人のうち、事前申し込み458人のところ、「コーチャンフォー釧路文化ホール」では65人、「生涯学習センター」では38人、「湿原の風アリーナ」では110人、阿寒地区では10人、合計223人の参加者数となり、参加率は14.3%となった。事前申し込みがあった音別地区は、参加者を限定したため当日の参加はなかったが、新成人代表の方のオンライン

のメッセージを配信した。また、式典当日の YouTube の視聴数は 165 回となったところである。

また、参加者への記念品として、一般社団法人 釧路自動車協会ほか 7 団体からご寄贈いただいたエコバッグに、記念誌や市関係課からのお知らせのほか、昨年からの取り組みとして、ふるさとに U ターンして就職して欲しいとの願いを込め、釧路の企業情報を紹介した冊子を入れて配布したところであり、参加できなかった方にも希望者へ後日送付することとしている。

当日は、教育委員会職員や財団職員に会場整理などのお手伝いをいただき、大きな混乱も生じることなく、予定の次第を滞りなく終了した。関係者の皆様に重ねてお礼を申し上げる。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

参加者が少なく寂しさはあったが、このような時期にきめ細かく対応して、問題なく開催できたことが重要である。

(岡部教育長)

今年度はもう 1 回開催することになるが、今回の開催で一定のノウハウを得たということもあり、来年 1 月の実施に向けて取り組んでいきたい。

【公開案件】 報告事項

(3) ベトナムを相手国とするホストタウンの取組について

(工藤生涯学習部次長)

東京 2020 パラリンピック競技大会については、本日 8 月 24 日に開幕し、9 月 5 日までの 13 日間の熱い戦いが続いていく。

ベトナムを相手国とするホストタウンとして、これまで当市においては、2019 年 1 月と 8 月の 2 回にわたり、パラ・パワーリフティングの選手 4 名とパラ陸上の選手 3 名を招き、事前合宿を実施している。

当市で事前合宿を行った 7 名の選手のうち、3 選手は東京パラリンピック本戦に出場を決めており、前回のリオデジャネイロ・パラリンピックや直近のアジア大会でメダル獲得の実績がある選手が含まれていることから、今回もメダル獲得が大いに期待されている。

大会中は、無観客での開催ということもあり、会場へ出向いて直接声援を送ることがかなわないため、応援メッセージを収めた DVD を選手村に滞在中の選手宛てに送付するとともに、朝陽小学校の児童による横断幕への寄せ書きも合わせて送付している。

釧路市民がベトナム選手の活躍を応援していることをお伝えしており、大会速報やメダル獲得が決定次第、選手へのお祝いメッセージを送ることも予定しており、ホームページや SNS などを使って、随時、発信していく。

各選手の試合の日程については、是非とも TV やインターネット配信などでご観戦いただき、声援を送っていただくよう、願います。

なお、大会後においては、朝陽小学校とベトナムをオンラインでつなぎ、子どもたちと選手たちとの交流も予定している。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

新型コロナウイルスのため、当初計画していたことができない寂しさはあるが、ベトナムの出場選手が釧路市のホスピタリティをどう受け止めるかが重要である。

(松尾委員)

応援メッセージの作成を朝陽小学校に決めた理由は。

(工藤生涯学習部次長)

北海道が指定するオリンピック・パラリンピック指定校が小学校と中学校に1校ずつあり、小学校が朝陽小学校、中学校が幣舞中学校となっている。

前回合宿に来た時に、朝陽小学校の子どもと交流会を開催した実績もあり、今回の決定となった。

【公開案件】報告事項

(4) 学校の現状について

(大山教育指導参事)

まず、コロナ関係について。

夏休みは中学校2つの部活動でクラスターが発生した。クラスターが発生した部活動に感染対策について調査したところ、国や道が示しているガイドラインに沿った対策が取られていた。

そのことを踏まえ、各学校にはガイドライン以外で感染が拡大する可能性があることを伝え、感染者がいる可能性があることを前提に感染予防対策をとるようお願いした。

緊急事態宣言に伴い、学校行事の変更の可能性があるため、その検討に入ることと教室の換気についてお願いした。

2点目は「教育委員の授業参観」について、山口委員から中学校の授業参観をしたいとの要請を受け、校長会議の中でお伝えした。

学校には、市教委が進めている授業改善が本気であることを示す良い機会になるので、この機会を利用して授業改善を進めるようお願いした。

なお、授業改善がなかなか進まない教員については、経営訪問の時の協議の対象とすることも伝えた。

3点目は、市教委独自の1次訪問が終了したので、その結果について説明した。まずは、すべての教員の授業を見せていただいたことにお礼を伝えた。また、学校ごとに協議の中で良い点は評価し、不十分なところは改善するよう指導し、全市的な傾向や課題についてお知らせした。例えば、「GIGAを含む学力向上プラン」は、課題として教員全員で学力向上に取り組んでいる学校と一部に留まっている学校があることや、中学校で教科部会が開かれず指導がバラバラになっている学校があることを

伝えている。

「校内研修」については、授業改善が中心になっているものの、実際に成果の上がる研修になっていない学校があり改善を求めたことを伝えている。「特別支援教育」については、指導を受けた学校については、改善を急ぐように話をした。

最後に「授業参観」については、組織的に授業改善に向かっていない学校があり、授業中に教員の真剣さが伝わってこないことを伝えた。

4点目は「授業改善のパート2」。今回は前回お願いした「授業改善に向けてどのように校内の世論を喚起するのか」について市内の学校の実践例を紹介した。

大きく5つの実践があり、一つ目は、「校長室だより」をこまめに出している学校。二つ目は、教頭先生や主幹教諭が「授業の一コマ」と言って授業の様子を写真に撮って解説付きで先生方に伝えている学校。三つ目は、教務主任や学力担当者が保護者向けに「学び通信」を発行している学校。四つ目は、校長先生が授業改善についてメンター研修（初任者向け研修）や校内研修で講話をした学校。この校長先生は実際に授業を行って見せた。五つ目は、校長先生が研修担当と具体案について話し合っている学校。

このように学校経営を具体的に進めている校長先生も多く、その情報を自分の学校経営に生かしてほしいと伝えた。

最後にタブレット端末を使った不登校児童生徒への支援について基本的な考え方、川の氾濫等に関する避難確保計画について説明した。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）

教育委員の中学校を中心とした授業を見せてもらう計画ですが、9月中に全ての中学校を回れるように計画を立てた。各学校との調整はこれからではあるが、よろしくお願ひしたい。

（大山教育指導参事）

是非各学校の授業を見ていただいて、校長先生と協議していただきたいと思う。また、事前に秋田県大館市の中学校の授業を見ていただけるよう日程を調整させていただきたい。

（松尾委員）

授業を見てどれが良いかという判断は難しいが、これまで公開研究会や授業参観させてもらった際は、数分で教室を移動していたので、今回の授業参観は子どもたちがどう感じているが分かるぐらい、ある程度長い時間一つの授業を見たいと思う。

（小出委員）

これまで父兄として子どもの授業参観を見てきたが、教育委員として報告などを聞いていると、学校の授業が先生にとって閉鎖的なもので、自分自身で向上していくことが難しいものであったと感じた。授業改善を行い変わろうととしてる中で、今度の授業参観でこれまでとは違うものが見ることができるのか楽しみにしている。

次に、緊急事態宣言が出されるようであるが、修学旅行などの実施状況はどうなっているのか。

(富田総括指導主事)

まだ半分程度しか終了していない状況であり、9月12日までの期間となった場合には多くの学校に影響あり、すでに10月に日程を変更している学校もある。また、今週出発の学校もあり、現在各学校で検討されている。

(種村委員)

小学校の授業は見ているが中学校の授業はこれまでほとんど見たことがない。

中学生の場合、先生が大変なのは学力の差がある中で、どこに焦点を絞って教えるか、また学習指導要領の改訂により難しくなった教科書をどのように教えているかに関心がある。

阿寒湖義務教育学校を視察した際は、少人数だったこともありかなり丁寧に教えている感想だった。

(山口委員)

午前は10時から12時ぐらい、3、4時間目の2コマ、午後は1時30分から3時30分まで5、6時間目を見たいと思う。大規模校については半日では回れないので1日かけて見る可能性もある。

いずれにしても授業をじっくり見せてもらい、校長先生と熟議できるような計画にしたい。

(松尾委員)

同じ教科で違う先生の授業を見て違いを見たい。

(富田総括指導主事)

大規模校の場合は3コマほど必要になるが、多くの授業を見ていただき、基本は子どもの立場になって授業を見ていただきたい。

(松尾委員)

コロナ対策の部分で、親が職場で濃厚接触者となった場合、子どもは自分がなんともなくても学校へは出てこれないという状況があると思うが、そういうケースはあるのか。

(大坪学校教育部長)

親が感染すれば、子どもは濃厚接触者になるため陰性、陽性に関係なく2週間の休みとなる。

親が濃厚接触者となった時、学校にウイルスを持ち込ませないということで徹底して対応している。

人数はすぐにお答えできないが、家庭内感染が広がっているため出席できない児童、生徒も一定数でている。

(松尾先生)

そのような際の対応は。

(富田総括指導主事)

学校からプリントを出したり、端末を使って授業配信したりドリルなどで対応している。